

校訓「至誠力行」の制定は、旧1期生が巣立ってからであるが、今玩味しても誠に立派な教訓と思う。

至誠にして動かざるものはなく、鬼神をも感動せしむるは至誠である。不言実行を尊び、「桃李もの言はざれど、下<sup>シノ</sup>おのずから蹊<sup>ミチ</sup>を成す」。黙って実行すれば人がついてくる。

徳のある人の所には、自然に人が集まってくるものだ。

至誠は洋の東西をとわず、昔も今も人間社会の基礎的徳徳であり、政治の根幹である。

## 「発 揮 会」(旧制八期)

旧制8期 高原 英夫

私達の卒業した年は蘆溝橋事件が起った年でこの事件が日中戦争に発展(拡大)して行った。昭和12年でした。

早いもので今年は卒業50周年に当るので9月6日と7日に50周年記念大会を能代で開催しました。

私達同期生は八期だったので「発揮会」と称して毎年同期生の慰霊祭を戦死した同級生の藤沢君の寺である白竜寺で旧盆を目安に終戦後催して来ましたが、今年は9月6日に行いその夜は青森県岩崎村にある同級生田口君の森山荘に一泊して久しぶりに旧懇をあたためました。卒業以来初めての友も岐阜から来て、懇親会は夜のふけるのも忘れ昔にかえって語り合いました。

私達は100名入学し2学級でしたが卒業は75名でしたので同期生と云うより5年間を共に過した同級生と云う関係でした。日中戦争時代でしたので殆んどの人が兵隊に行った連中で戦死した人も大

至誠力行の母校の歴史と傳統を改めて振り返り、益々の発展を心から念願する次第である。

現代社会に於ても、至誠を以て経営の根本としている企業が多いのも、「誠意は通ずる」からである。

歴史の中に蓄積されてきた、至誠力行、人材育成の開校精神で、新時代の社会に貢献するため、更に自己研鑽に励み、有為な人材となるよう期待してやまない。

分おりましたので生き残った連中で死んだ同級生の霊を慰めると共に残された家族の人を元気付け様ではないかと云う事で毎年白竜寺で藤沢君のお父さんのお寺さんにお願して慰霊祭を続けて来たのです。

今年は去る8月13日本会の会員でした清水良平君が亡くなりました。前の秋田県東京事務所長でした藤田さんの叔父に当る人で早稲田を出て東京海上火災に停年迄勤められ退職後保険会社を作られ頑張っていたのに、と非常に残念です。

毎年の様に1人2人と欠けて行く同級生が居り年賀状が段々と少なくなって行く事は淋しい限りです。

今年の同期会と慰霊祭には20名以上も参加し元気に現役で頑張ってる人、又余生を楽しんでる友ありでしたがお互健康に充分注意して又逢う日を楽しみに別れて来ました。最後に会の皆様の御健勝と会の益々の発展を心からお祈りいたします。

## 楽士会のこと

旧制11期 安濃 五平

昭和55年秋、当時東京および周辺に在住の旧制11期生12名中8名が箱根に一泊して久しぶりのクラス会を行いました。40年ぶりで逢う者もあり、名前と顔の一致しない者もありでしたが、酔う程に少年の頃にかえり、話題はつきませんでした。

以後、毎年1回は集まって旧交を温めることになり、能上君の発案で標記の会名も決まりました。「タノシカイ」と読みます。生れ年の大正11年と11期の十一から「士」をとり、楽しい士の集いと云うことです。

大体は、会場へ集まって、飲んで、しゃべって解散という形式ですが、昭和57年秋の還暦クラスは、夫人同伴で三島大社でお載いを受け、伊豆で

一泊しましたが、遠く九州から渡辺君も単身で参加して一夜を語り明かしました。副産物としては、奥さん同志の交流ができたことです。

しかし、この数年間に丸山君、雄鹿君の2人が還らぬ人となり、健康上の理由で参加できない者もあり、齢を重ねる毎にさびしくなります。従って、「元気なうちに出来るだけ逢っておこう」がクラス会の解散の挨拶になってしまいました。

尚、在郷の同期の諸君から卒業50周年（昭和65年）に、能代と東京の合同クラス会を開催したいと連絡があったことをつけ加えて現況報告を終ります。

## 旧制13期（昭和17年卒業）

旧制13期 勝永 金一

我々旧制13期生といふのは、卒業年度が昭和17年で、齢い62、3才になる。

云はば、大抵の人は会社での定年も過ぎて傍系の会社へ横すべりし、或る程度老後の設計も樹て終った頃かとも思はれる。

まだまだと思っていたら我が同輩も随分といい年になったものだとつくづく思はれる。

私共は第二次大戦の始った翌年の卒業で、同期の卒業生は約90名位だったと思ふ。その後病死した者もあり、戦死したものは多分一割位と聞いている。亡くなられた方には心から御冥福を祈らずには居られない。

能代高校も開校60年を過ぎたとの事、我々が卒業した頃の一期生といふのは30才位で云はば人生の青二才といった頃かと思ふ、それが今ではその一期生が75才位になって居るといふのですから能

代高校も随分と深く根をはったものだと思ふ。

私も在京同窓会には度々出席させて貰ってます。年一回乍ら懐かしい皆さんと顔を合はせるのは又格別な思いがあるのですが、やはり当日都合がつかず同期のものが来なかったりすると本当にかっかりするものです。そこで最近になって漸く我々同期の桜が年一回、オレ、オマエの旧交を暖めようではないかといふ事で昨年新宿で一回目の会合を開いたのです。今後は恒例として毎年続けようといふ事にして居ります。

同窓会での先輩後輩の集いもそれなりにいいものだが、同期の集いはザックバラんだし、鼻たれ小僧時代の顔を思い出し乍らの話題には若き血が蘇るものである。

そして最後は軍歌を唱ってしめるといふのも我々年代の共通したならわしになってしまったよう